



年率20%を目指す！ 鈴木一之の 「ビジネス・サイクル投資法」



目次(金曜版)

注目セクター厳選 週間天気予報

市況上昇は半導体、非鉄、化学製品

注目材料 分析

非鉄市況は二極化しつつある

ビジネス・サイクル投資法

非鉄セクターは「短期・見送り」とする

シクリカル銘柄 厳選

非鉄セクターの高値は追いきれない

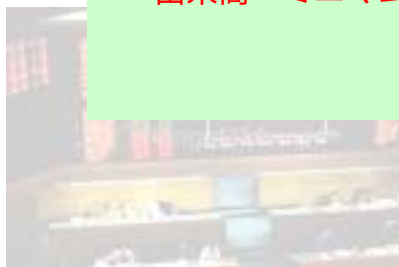
シクリカル銘柄 フォロー

注目トピックス

7月 家計調査 (総務省)

鈴木一之の投資論

出来高「ミニマム」で買いを実行



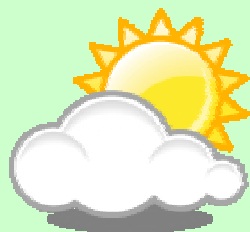
制作:鈴木 一之
編集:クラブフィスコ

注目セクター厳選 来週の天気予報

市況上昇は半導体、非鉄、化学製品

非鉄金属製品

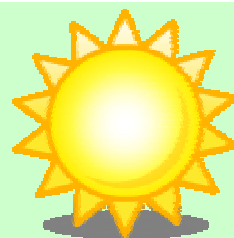
非鉄市況の上昇も
徐々に2極化



鉛の国際価格が急上昇
銅はまだ堅調、アルミ頭打ち
在庫増加が新たな懸念材料
中国景気の行方に神経質

半導体

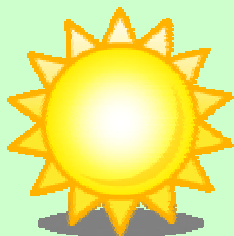
価格上昇、需給ひっ迫
が強まる



7月BBレシオが1.34に。
スポット、大口価格ともに上昇。
液晶テレビの売れ行き好調。
秋冬のPC需要増も期待大

石油化学

アジア向け輸出の
好調持続



中国向けに塩ビ、石化製品の輸
出意欲強い。
工場はフル稼働を続ける。
原油価格の再上昇がネックに。

鉄鋼

鋼板類の上昇再開
ただし供給過剰感も



電炉の価格引き上げが浸透
鋼板類の上昇もようやく始まる
ただし鉄スクラップは上昇一服
中国で工場新設ラッシュ

注目材料 分析

非鉄市況は二極化しつつある

非鉄市況は上昇品目と下降品目に二極化しつつあるのだろうか。騰勢を強めていた非鉄市況のなかでも、先週来最も激しく上昇したのは鉛（なまり）である。

今や世界最大の鉛生産国となった中国で、鉛中毒の被害が発生し生産停止となる精錬会社が相次いでいることが判明。合計で年間25万トン前後、中国の生産量の10%に相当する鉛生産が滞る可能性が浮上し、それが足元での鉛市況の上昇につながっている。

鉛精錬所の最終的な安全性の確認が取れるまでに、半年から1年の時間を要するという。人命がかかっていることであり、ストライキで鉱山が操業停止となるケースとはわけが違ふ。世界の自動車メーカーでは生産調整の解消にメドが立ってきており、自動車用バッテリー向けに鉛の急激な需要が再浮上しようとしていた矢先。ボトルネック型の価格上昇の典型例である。

その一方で、価格反転の面で先行した銅はこれまでの騰勢に陰りが見え始めた。銅ばかりでなく、アルミ、アルミ合金、ニッケル、スズも同様。要は、鉛以外の品目はそろって頭打ち傾向となってきたように見える。まだ明確に下落基調に入ったわけではないが、春先～夏場にかけてのようなこれまでの上向きのモメンタムの強さには変化が生じている。

LME・鉛 2009年1月～2009年8月



ビジネス・サイクル投資法

非鉄セクターは「短期・見送り」とする

非鉄セクターの投資判断は「短期・見送り」とする。理由は、足元のロンドン非鉄市況の上昇にわずかながら一服感が生じているためだ。世界の景気底入れ・回復基調を先取りして、今年2月からほぼ一貫して非鉄市況は上昇を続けてきた。その先見性と景気動向への感応度の高さが改めて認識された次第だが、その上昇基調も徐々にモメンタムが低下しつつあるようだ。

上昇力を強めている鉛でも在庫増加の兆し

日付	銘柄(コード)	掲載日終値	投資スタンス	判断
8月28日	東邦亜鉛 (5707)	467円	短期	見送り
8月28日	三菱マテリアル (5711)	283円	短期	見送り

世界のマネー市場では、引き続き中国の株価動向、およびそしてその背後にある中国株式市場の動きに神経をとがらせている。果たして中国経済および中国株式市場はバブルなのか。ジャブジャブの資金供給が続いており、マネーサプライは空前の水準まで急上昇。いずれ超低金利政策を転換するとの見方が強まっているが、ひとまず狼狽は収まったようだ。

昨年11月より実施されている中国政府の4兆元（約55兆円）にのぼる景気対策は、日本および世界の素材メーカーの収益をかさ上げさせている。たとえば住宅資材として多用される塩化ビニール樹脂を輸出する総合化学大手の東ソーでは、四日市事業所のエチレン設備の稼働率は昨年ぐれに75%まで急低下したが、これが今年5月には早くもフル操業に戻った。塩ビ自体の稼働率も2月の65%から現在は90%にまで上昇しているという。

ここまでは確かにそれでよかったのだが、在庫状況が日々公表されるロンドン非鉄取引所では、今再び、鉛、ニッケル、アルミの在庫増加も目立ってきた。価格上昇の足かせになるのが在庫の動きであり、注意を要する。

シクリカル銘柄 厳選

非鉄セクターの高値は追いきれない

東邦亜鉛（５７０７）



(C) FISCO / FISCO PLACE

世界有数の亜鉛・鉛の精錬会社。精錬事業、電子部材事業、環境・リサイクル事業と3部門を持つが、収益の7割以上を精錬事業で稼ぎ出す。安中（群馬）、小名浜（福島）、契島（広島）の製錬所は現時点でわが国有数の規模を誇る。2003年9月に豪州のCBHリソースに出資し、同社を通じてエンデバー鉱山を取得。近年世界で開発された鉛鉱山の中でも最大規模を誇る。

三菱マテリアル（５７１１）



(C) FISCO / FISCO PLACE

セメント、銅、加工、電子材料の4つの部門をコア事業として展開。国内では直島（香川）、小名浜（福島）に精錬拠点を設け、海外でもグレスック（インドネシア）精錬所を所有。チリのロス・ペランブレス鉱山、エスコンディータ鉱山、及びバツ・ヒジャウ鉱山（インドネシア）、ハックルベリー鉱山（カナダ）の4鉱山に出資参画している。

シクリカル銘柄 フォロー



掲載日	銘柄(コード)	掲載日終値	スタンス	現在値	ロスカット値
7月3日	トーメンデバイス (2737)	1,220	買	1,687	1,037
7月24日	東京エレクトロン (8035)	4,670	買	5,090	3,970
7月24日	アドバンテスト (6857)	1,936	買	2,320	1,646
8月7日	ローム (6963)	6,980	買	6,240	5,933
8月7日	村田製作所 (6981)	4,650	買	4,390	3,953
8月14日	郵船航空サービス (9370)	1,261	買	1,305	1,072
8月14日	近鉄エクスプレス (9375)	2,300	買	2,160	1,955
8月25日	日本ゼオン (4205)	459	買	469	390
8月25日	東京応化工業 (4186)	2,250	買	2,245	1,913

※現在値は配信日終値を記載

※スタンスには売買推奨の区別を記載

◆今週火曜日のレポートにて、化学セクターから半導体部材メーカーの日本ゼオン(4205)と東京応化工業(4186)を新たに買いリストに追加。

◆引き続き、推奨銘柄のほぼすべてを半導体及び電子部品セクターに集中させている。

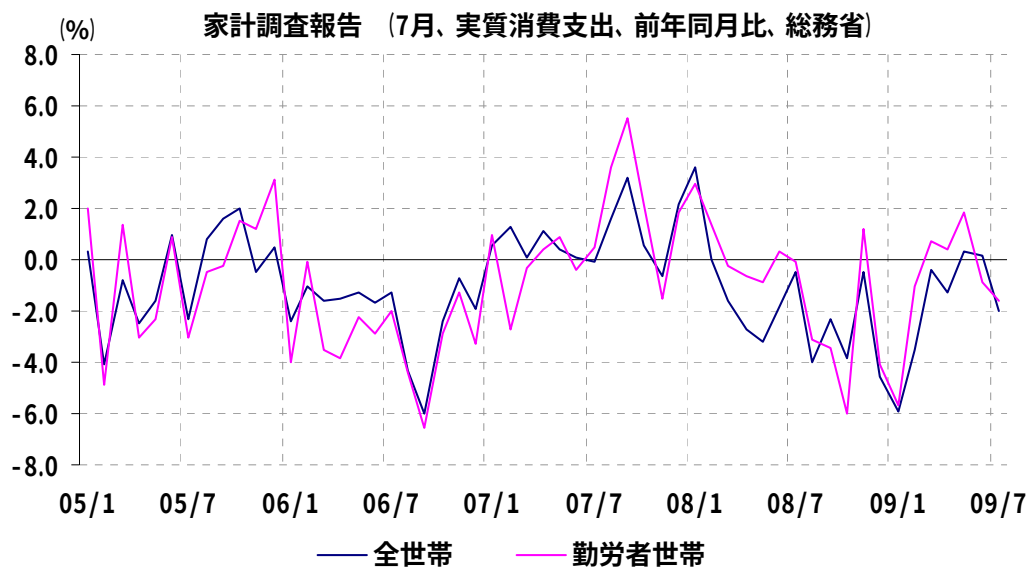
◆今回、削除された銘柄はない。

注目トピックス

7月 家計調査 (総務省)

◆8月28日、総務省より7月の家計調査が発表された。それによれば、2人以上の世帯の消費支出は、物価変動の影響を除いた実質値で前年同月比-2.0%の減少となった。夏場の天候不順の影響でエアコンやビールなどへの支出が減ったことが大きいと見られる。インフレの影響を無視した名目消費では-4.5%の減少だった。大規模な生産調整を続ける企業の厳しい経営環境を映して、賃金の上昇が見込みにくく個人消費も力強さを欠いている。

◆消費支出が実質でマイナスになるのは3カ月ぶりのこと。昨年7月は猛暑の影響で夏物商品の売上が一部品目で伸びているため、今年はその反動も出やすいと見られる。勤労者世帯の実質消費支出は-1.6%の減少で2カ月連続のダウンとなった。



鈴木一之の投資論

出来高「ミニмум」で買いを実行

エルピーダメモリ（6665） 日足



買い（1）

どのような時に買えばよいか。好材料が出た時？、新たな投資資金が入った時？、テクニカル上の抵抗線を抜けた時？、いずれも正解である。そしてそこにもうひとつ付け加えたい。

買いは「常にウォッチしている銘柄の出来高が極小（ミニмум）になった時」に行うべきである。上図の例で明らかであろう。出来高のミニмумとは相対的なものであって、普段のその銘柄の出来高からすればあまりに少ない、という状況を指す、その銘柄が市場ではほとんど無視されて誰からも注目されていない時に起こる。そしてそういう時に限って、株価は直後から動き出したりするものである。出来高のミニмумは、常に注意してその銘柄を見続けていないと気がつかない。

ディスクレーマー

【重要事項 株式会社フィスコプレイス】

■ 株式会社フィスコプレイス（以下「フィスコプレイス」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪証券取引所・ジャスダック証券取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

■ “JASDAQ INDEX”の指数値および商標は、株式会社ジャスダック証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

■ 掲載される情報はフィスコプレイスが信頼できると判断した情報源をもとにフィスコプレイスが作成・表示したのですが、その内容および情報の正確性、完全性、適時性について、フィスコプレイスは保証を行っておらず、また、いかなる責任を持つものでもありません。

■ 本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告無く変更する場合があります。

■ 本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコプレイスに帰属し、事前にフィスコプレイスへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

■ フィスコプレイスが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

■ 本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

■ 本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大することを保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、フィスコプレイスは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

■ フィスコプレイスおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

■ 投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。